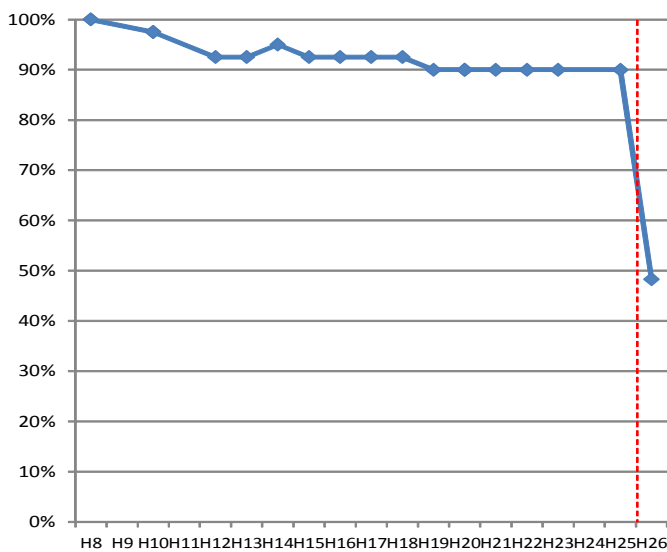


樹種名	シリブカガシ	
科 目	ブナ科	
学 名	<i>Lithocarpus glabra</i>	
分 布	常緑性の高木で、暖帯性であり、近畿地方以西の本州、四国、九州、沖縄の比較的海岸に近い標高 500m 以下の地域に分布し、京都府の保津峡が分布北限である。分布北限の近畿地方の個体数は少ない。 日本以外に中国南東部・台湾にも分布する。	
樹木特性	半陰樹で、やや乾燥した丘陵地の照葉樹林に生育し、占有することもある。	
用 途	公園樹、建築・器具材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	60 本／0.02ha (3,000 本／ha)	
特 徴	【樹 形】 常緑高木で樹高は 10~15m。幹は直立、分枝する。樹皮は灰褐色でなめらか。若枝には短毛が密生する。 葉柄は 1~1.5cm、葉は長さ 8~15cm で肉厚で革質、葉形は長楕円形で先が鋭く尖る。葉縁は全縁、ときに葉上部に浅い鋸歯が 1~2 個ある。葉の表面は緑から濃緑色で光沢があり、葉裏は淡緑色で鱗状毛が密生し金色または銀色の光沢がある。側脈は 6~8 対である。その葉質や形はアカガシによく似ている。 堅果は翌年の秋までに熟し基部の着点がかくぼむ、食べられる。秋には花(9 月から 10 月)と実が同時に見られる。材は堅く器具材となり、昔は良質の薪炭材として利用された。	
		  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽から 18 年が経過した現在の平均樹高は 12m 程度まで成長している。現存率は 48 %となっている。	
被 害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数 コウモリガ：9 本、カミキリムシ類：1 本)	

シリブカガシ 現存率



【現存率】

植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が発生した。

平成 19 年度以降の枯死は見られない。

林内の照度調整のために、平成 21 年度と平成 23 年度の 2 回に分けて本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 48.3%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

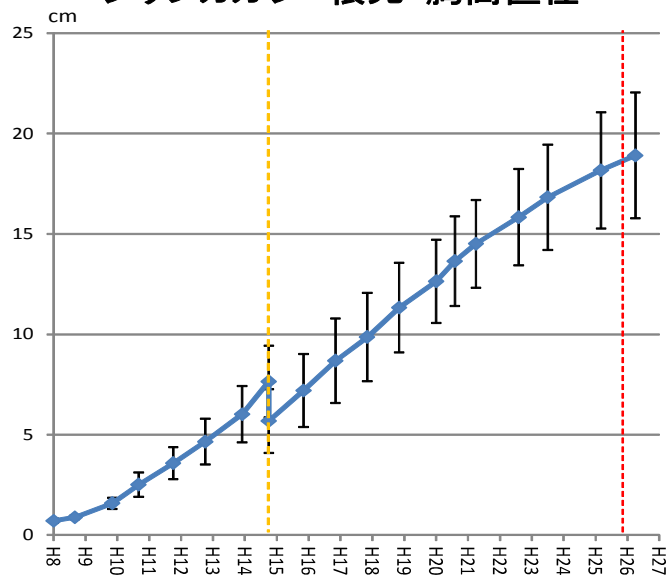
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 18.91 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

シリブカガシ 根元・胸高直径



【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 12.52m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

シリブカガシ 樹高

